

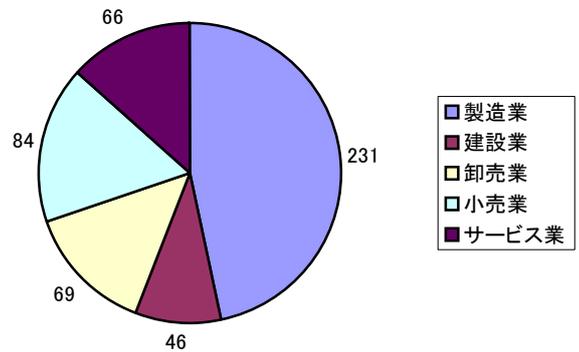
景気動向

業況は、引き続き足踏み状態
先行き見通しは、慎重な見方が強まっている

- 調査時点 平成20年7月調査(20年6月末時点)
- 対象企業 800社
- 回答企業 496社(回答率:62.0%)
(製造業231社、建設業46社、卸売業69社、
小売業84社、サービス業66社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	231
建設業	46
卸売業	69
小売業	84
サービス業	66



<全産業>

全産業の業況DI(▲50.8)は、前回(▲39.1)に比べて11.7ポイント低下した。業種別では小売業、サービス業のDIは悪化を示し、製造業のDIはわずかに悪化傾向、建設業のDIは横ばいを示した。卸売業のDIはわずかに改善を示している。

企業は原油価格高騰、原材料価格上昇を製品価格に転嫁できず収益を圧迫し、さらにガソリンや食料品の値上げが相次ぎ、個人消費は節約志向を強めており売上に影響を与えている。

3か月先見通しは製造業、非製造業ともにわずかに改善を見通しているが、引き続き原油・原材料価格動向、公共工事の発注量、消費の低迷等の不安要因がみられ、慎重な見方が続いている。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
6月末時点	-50.8	-39.3	-56.0	-30.4
3月末時点	-39.1	-33.4	-47.2	-28.3
前回比	-11.7	-5.9	-8.8	-2.1

■全産業の業況

業況	6月末時点	3月末時点
良化	8.3	10.2
悪化	59.1	49.3
DI値	-50.8	-39.1
前回比	-11.7	2.3

■6月末時点から見た全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	6.7
悪化	48.4
DI値	-41.7

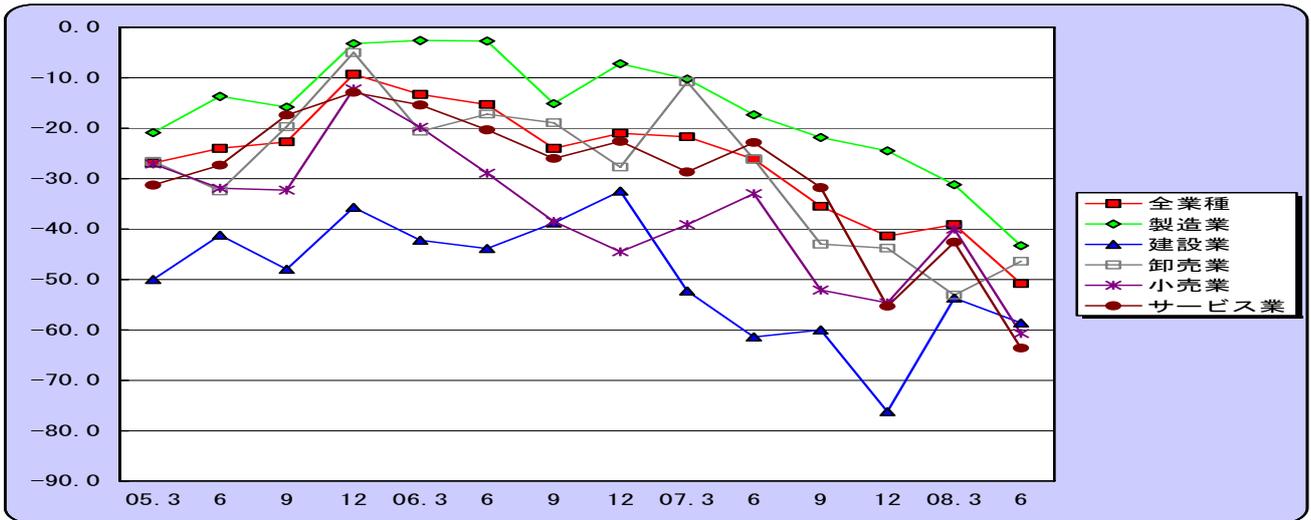
■製造業の業況

業況	6月末時点	3月末時点
良化	11.3	12.7
悪化	54.6	43.9
DI値	-43.3	-31.2
前回比	-12.1	-6.7

■非製造業の業況

業況	6月末時点	3月末時点
良化	5.7	8.0
悪化	63.0	54.0
DI値	-57.3	-46.0
前回比	-11.3	9.6

■業種別業況DI値推移グラフ



<製造業>

業況DI値	
今回	-43.3
先行き	-31.2
前回比	-12.1

対象企業	354
回答企業	231

業況・売上・採算はわずかに悪化傾向を示し、資金繰りは横ばいを示した。業種別にみると「織物」「窯業・土石」「金属」「機械器具」「プラスチック」の業況の前回比は改善傾向を示した。「ニット」「縫製」「木材・木製品」「印刷」「鉄鋼・非鉄」「電気機器」「輸送用機器」の業況の前回比は悪化を示し、「一般機械」は横ばいを示した。3か月先見通しは、業況・売上・採算はわずかに改善を見通し、資金繰りは横ばいを見通した。業種別にみると「酒造」「ニット」「縫製」「木材・木製品」「窯業・土石」「鉄鋼・非鉄」「電気機器」「輸送用機器」の業況は改善を見通している。「一般機械」は横ばいを見通し、「織物」「印刷」「金属」「精密機器」は悪化傾向を見通している。

自由意見

製造業

- 原油、原材料の上昇が収益面に大なる影響が生じております。【食料品】
- 最悪 【食料品】
- 業界業況が長期下落傾向にあるので、現在上昇傾向にある焼酎業界に7月より新規参入することにした。【酒造】
- 2月全製品を値上げしましたので販売数量は少し減少しておりますが、今のところ収益は微増です。今後、諸経費が増加しておりますので、益々大変になると思います。【酒造】
- 資材、他、全般の値上により、コスト増。大変厳しい。【酒造】
- 昨年より、仕入、加工委託、他、ほぼ全ての分野でコスト上昇が続いており、100%それが売値に転嫁出来ていない。和装業界は、日本経済、老後の心配・不安により、消費が落ち込み市況悪。【織物】
- 夏期5・6・7月は例年仕事量の確保が難しく、今年もその傾向が強い。やはり9月以降でないとな順調でないと思う。【縫製】
- 仕事があっても厳しい事が多く、資金繰りは悪化です。難しい仕事で、なかなか良くなっていきません。【縫製】
- 住宅の着工が1月～5月全国前年比平均80%です。大変なことです。業者が無くなります。当社も社員をリストラしました。【木材・木製品】
- 業界として高いレベルにあるが、原材料の高騰で採算は悪化傾向にある。ユーザーが製品値上げを全て認めない。【木材・木製品】
- コストインフレが大きく、影響が出てきている。【木材・木製品】
- 不況、受注減少。【木材・木製品】
- 製品安の原価高で苦慮しております。【木材・木製品】
- 建築業界の下落による影響が大 【木材・木製品】
- 大幅な受注減、原材料の大幅アップ、受注額のダウンにより、限界を迎えつつあります。【印刷】
- 資材の値上り分を価格転嫁出来ない。【印刷】
- 一般印刷物はだんだんなくなって行くので、自社ならではのものを考えて行きたい。【印刷】
- 安値競争の中で諸材料の値上げで、大変厳しい業況である。諸材料(燃料含)の値上がり分転嫁等、適正価格で販売を考慮中である。資金繰りにも弱っており、制度資金の活用方法をご指導願いたい。【窯業・土石】
- あまりのひどさに言葉もありません。コストダウンは、これ以上するところがないところまでできています。

低入札、値上を認めないゼネコン建設会社。	【窯業・土石】
○5年前より重油が3倍・AL地金が2倍と上昇している。今後どうなっていくのか心配です。	【鉄鋼・非鉄】
○材料の値上がりを商品に反映させられない。	【金属】
○原材料等の異常な高騰、及び建築基準法の改正等により、物件への着手ができなく困っている。	【金属】
○公共事業の減少により、仕事量少なく、又、鋼材の値上りが大きく大変な経営が続く。	【金属】
○材料費、燃料費等の上昇、受注量の減少、販売単価の値引要請など非常に厳しい状況にある。	【金属】
○燃料をはじめ原材料の高騰が続き、収益が悪化している。	【金属】
○材料費の高騰が経営を圧迫しつつあり、先行に対し不安感が強くなって居る。	【一般機械】
○全体的に受注減少に加えて原油・原材料の上昇、又、社会保障費のアップ等にて事業継続が困難である。	【電気機器】
○メーカーで材料の値上げを認めたにもかかわらず、末端の子会社では値上げが認められない事例があるようです。	【輸送用機器】
○鋼材値上げ影響大。食も含め原材料高騰。	【輸送用機器】
○原油及び鉱物の高騰の及ぼす影響は、今後大きいものとなる。	【輸送用機器】
○鉄、ステンレス材の高騰	【精密機器】
○原材料費上昇分を単価に上乗せ出来ない。	【精密機器】
○材料、副資材の値上りと取引先のコストダウンによる影響あり。	【精密機器】
○未だ改善策が見つからない。	【プラスチック】
○3ヶ月先わからない。	【プラスチック】
○原油が高すぎる！原料と重油の値上りを販売単価に転嫁できるか？なにせ上り方が異常である！！	【プラスチック】
○材料の再三の値上げ及び受注減少が大きな問題で、当面続くと予測される。	【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	-58.6
先行き	-56.5
前回は	-4.9

対象企業	72
回答企業	46

業況は横ばいを示し、売上・採算はわずかに悪化を示した。資金繰りはわずかに改善を示している。業種別にみると「土木」の業況の前回比は悪化を示したが、「建設」はわずかに改善を示した。3か月先見通しの売上はわずかに改善を見通しているが、業況・採算・資金繰りは横ばいを見通している。業種別にみると「土木」の業況・売上・採算・資金繰りはいずれも改善傾向を見通している。「建築」の業況・売上・採算・資金繰りはいずれも悪化傾向を見通している。

<卸売業>

業況DI値	
今回	-46.4
先行き	-50.7
前回は	6.7

対象企業	106
回答企業	69

業況・売上・資金繰りはわずかに改善傾向を示し、採算は横ばいを示した。業種別にみると「衣服」の業況は改善を示し、「飲食料」「機械器具」「建築材料」はわずかに改善傾向を示したが、「青果物」「鮮魚」は悪化を示した。3か月先見通しは、売上はわずかに悪化を見通し、業況・採算・資金繰りは横ばいを見通している。業種別にみると「衣服」「飲食料」「建築材料」はわずかに悪化を見通し、「青果物」「鮮魚」「機械器具」は横ばいを見通した。

自由意見

卸売業

○原油高等により、すべての面で厳しくなっている。食品等の値上げにより衣料品にも影響。	【衣服】
○どの商品も仕入が高くなって販売しづらくなりますので、売上げは落ちると思います。	【衣服】
○重油の高騰で、経営難しくなっている。	【衣服】
○3ヶ月先わからない。	【飲食料】
○6月は製品価格の値上げによる駆け込み需要等で、売上は前年を上回ったが、7月以降は、受注の減少が予想される。	【機械器具】
○建具は激変の最中、自社及び業界の方向見えず。	【建築材料】
○全ての資材が高騰の中、木材製品単価には転嫁できていません。市況も冷え込んでいます。採算の悪化が予想されます。	【建築材料】
○仕入先のインドネシア、マレーシアの製材品の価格は、今後上る見込み。	【建築材料】

<小売業>

業況DI値	
今回	-60.7
先行き	-50.0
前回比	-20.7

対象企業	161
回答企業	84

業況・売上・採算・資金繰りはいずれも悪化傾向を示した。業種別にみると「中小スーパー」「衣料」「飲食料」「家電品」「自動車販売」「家具・建具」「大規模店」の業況はいずれの業種も悪化を示した。3か月先見通しは、売上は横ばい、業況・採算・資金繰りはわずかに改善を見通している。業種別にみると「大規模店」の業況は横ばいを見通し、「中小スーパー」「衣料」「飲食料」「家電品」「自動車販売」「家具・建具」はいずれも改善傾向を見通している。

自由意見

小売業

- 不況に追い打ちをかける様に燃料が上がり、車の台数がめっきり減少し、売上げも上がらない状態です。【中小スーパー】
- 良くなることを信じて前向きに行きましょう！！ 【衣料】
- ガソリン代値上りとパン値上り響きました。 【飲食料】
- 修理、荷動き件数が少なく、小物品もバラで見積り低価格である。 【家電品】
- オリンピック需要がどこまで期待できるかが問題である。 【家電品】
- 仕入単価の上昇、それに、競争激化で販売がますます苦しいです。経費をとるのがやっとなです。 【家電品】
- 全体需要は横ばい、或いは下降路線。原油高等で消費者は慎重であるが、経費削減努力で収益は横ばいである。 【自動車販売】
- 当社は建設会社との関連があり、公共工事削減、破産会社も多く売上悪化。問題は入札制度見直しの事です。 【自動車販売】
- ガソリン、食料品等の値上りにより消費活動は弱まり家計は防衛に入りつつあるように思える。スタグフレーションの域に入りつつあるのではないか。 【自動車販売】
- 客数の減少が目立つ。 【その他】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-63.6
先行き	-48.5
前回比	-21.0

対象企業	107
回答企業	66

業況は悪化を示した。採算・資金繰りはわずかに悪化傾向を示し、売上は横ばいを示した。業種別にみると「情報サービス」の業況はわずかに改善傾向を示したが、「観光旅館」「タクシー」「運送」「自動車整備」は悪化を示した。3か月見通しの業況・売上・採算・資金繰りはいずれもわずかに改善を見通している。「運送」の業況の見通しはわずかに改善を見通しているが、資金繰りは悪化傾向を見通している。「自動車整備」の業況は横ばいを見通し、「情報サービス」の業況はわずかに悪化を見通している。

自由意見

サービス業

- 燃料価格上昇による経営の悪化。 【旅館・ホテル】
- 日本経済も重油高騰が主要因でおかしくなのは。 【旅館・ホテル】
- 益々悪くなる。つぶれてしまう。 【旅館・ホテル】
- 社内の経営改善の努力と外部環境の好転(再開発計画等)により、良化を見込みたい。 【旅館・ホテル】
- 原油の異常な高騰が今後の懸念材料です。 【タクシー】
- 燃料費の高騰にて先行き不透明です。企業努力だけではどうにも出来ない状況です。 【運送】
- 値上げのラッシュです。鋼材も値上りし、車両本体価格も大幅な値上りとか？ 【運送】
- 当社は運送関係が主取引先なので、燃料上昇の影響で受注が減少している。又、鉄製品の値上りがひどい問題外である。 【自動車整備】
- 少子化による教習生の激減と燃料費の高騰で経営が厳しくなっている。 【その他】